

TS（トータル・サティスファクション）を目指して MI2

生徒を「大人扱いする」ということ

校長室担当より

すでにご存知のこととは思いますが、もう一度確認をさせてください。

近代社会では、規則をつくって管理することが当たり前に行われていました。大量生産の時代にはその方が効率良かったため、20世紀の終わり頃からは、会社では社員を競わせ、「評価」という飴と鞭で、そしてルールを作ってルールで違反を処罰し、管理し始めます。ルールを作って、そこからはみ出た人間を罰すればいいのですから、実はこのことは管理する側にはとても楽でした。ただこれをやると人間は弱体化します。実際に規則でがんじがらめにし、成果だけを求めるアメリカ型の成果主義を取り入れた日本の大企業は、これをやめてしまった経緯があります。理由は、「会社が決めたルールを守ってさえいればいい」と思考停止する、つまり自分の頭で考えない社員が増えたからだそうです。

ルールの目的を理解し、適切に従う力は必要です。しかし、一部の学校には、その目的を十分理解させることなく未だにルールを振りかざしたり、罰則的に内申点で行動を制御しようとする風潮が残っていることがあります。すると、学校側にはそんな意図がないにも関わらず、保護者に見れば子どもを人質にとられたような感覚が残り、今度は何かあるごとに「学校の管理不行き届きだ」と責める人も出てきます。そうなると、また学校はますます生徒を管理して、締め付けようとし、まさに断ち切らないといけない悪循環。

現在教員をやっている私たちは、そういった管理教育と受験戦争を生き抜いてきた人が多いため、どうしても同じことをしないと生徒は伸びないと感じ、「早く早く」とあらかじめ細かく指示を出し、失敗しないように先回りすることもあると思います。しかし今は、細かい汎用的な能力は別として、「自分の頭で考える」人材が最も求められる社会になっています。彼らが社会に出た時に「思考停止」にならないように、目的を理解して自分なりの意見を持って行動する機会を確保し、間違えたり、失敗したときには自分でやり直すための対話や支援をする。彼らを「大人扱いする」とはそういうことだと考えています。いい学校をつくりましょう、一緒に。(令和6年11月26日)